

大阪医科薬科大学薬学部

研究業績

2023 年度

(2023 年 4 月～2024 年 3 月)

目次

医療薬学領域

病態分子薬理学研究室	4
薬品作用解析学研究室	6
薬物治療学Ⅰ研究室	8
薬物治療学Ⅱ研究室	11
病態生化学研究室	13
生体分析学研究室	15

薬学臨床領域

薬剤学研究室	17
製剤設計学研究室	18
社会薬学・薬局管理学研究室	22
臨床漢方薬学研究室	25
臨床薬学教育研究センター	26
衛生化学研究室	31

生物・予防薬領域

感染制御学研究室	33
生体機能解析学研究室	35
生化学研究室	36
薬品物理化学研究室	37

創薬科学領域

機能分子創製化学研究室	38
有機薬化学研究室	39
医薬分子化学研究室	41
生薬科学研究室	42
分子構造化学研究室	43

薬学教育領域

薬学教育推進センター	44
------------------	----

総合薬学研究センター

総合薬学研究センター	45
------------------	----

総合科学系領域

言語文化学グループ	46
-----------------	----

自然学グループ	47
---------------	----

人間文化学グループ	48
-----------------	----

環境医療学グループ	49
-----------------	----

病態分子薬理学研究室

学術論文

Tawa M, Nakagawa K, Ohkita M. 2023 Effects of beetroot juice supplementation on vascular functional and structural changes in aged mice. *Physiol Rep* **11(12)**: e15755, doi: 10.14814/phy2.15755. PMID: 37340325

著書

大喜多 守. 2023 第 15 章 B: 脂質代謝異常: 脂質異常症・C: 尿酸代謝異常: 痛風・高尿酸血症, 「コンパス薬理学」 櫻田 司・木皿重樹 編集, 南江堂 (東京), pp373-386

学会

田和 正志, 中川 恵輔, 大喜多 守. 可溶性グアニル酸シクラーゼ活性化薬の冠攣縮性狭心症治療薬としての可能性: 生体機能と創薬シンポジウム 2023, 2023 年 8 月 (徳島)

中川 恵輔. 虚血性急性腎障害に対する sGC 刺激薬の影響: あべの薬理学懇話会, 2023 年 8 月 (大阪)

田和 正志, 永野 淳也, 北間 淳平, 阿部 俊人, 藤田 亜湖, 中川 恵輔, 大喜多 守. モノクロタリン誘発肺高血圧症に対するビートルートジュース摂取の治療効果: 第 45 回 日本高血圧学会総会, 2023 年 9 月 (大阪)

田和 正志, 中川 恵輔, 大喜多 守. 冠攣縮に対する可溶性グアニル酸シクラーゼ活性化薬の有用性: 第 33 回 日本循環薬理学会, 2023 年 1 月 (大阪)

中川 恵輔, 杉山 美羽, 井上 悠, 佐々木 里真, 北條 賢太郎, 田和 正志, 大喜多 守. 虚血性急性腎障害に対する可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激薬の影響: 第 33 回 日本循環薬理学会, 2023 年 1 月 (大阪)

田和 正志, 中川 恵輔, 大喜多 守. 老齢マウスの血管老化に対するビートルートジュース摂取の効果: 第 53 回 日本心脈管作動物質学会, 2023 年 2 月 (広島)

田和 正志, 中川 恵輔, 大喜多 守. 可溶性グアニル酸シクラーゼ活性化薬のブタ冠動脈および冠静脈に対する弛緩作用の比較: 第 144 回 日本薬理学会近畿部会, 2023 年 3 月 (大阪)

中川 恵輔, 大柴 依子, 田和 正志, 大喜多 守. Roxadustat がラット胸部大動脈の血管緊張調節に及ぼす影響: 第 144 回 日本薬理学会近畿部会, 2023 年 3 月 (大阪)

村本 聡史, 中川 恵輔, 杉山 美羽, 井上 悠, 佐々木 里真, 北條 賢太郎, 田和 正志, 大喜多 守. 可溶性
グアニル酸シクラーゼ刺激薬が虚血性急性腎障害に及ぼす影響: 第 144 回 日本薬理学会近畿部会, 2023
年 3 月 (大阪)

中川 恵輔, 小林 史佳, 亀井 芳樹, 田和 正志, 大喜多 守. 尿毒素キヌレニンが血管機能に及ぼす影響:
日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

薬品作用解析学研究室

学術論文

Kinboshi M, Shimizu S, Tokudome T, Mashimo T, Serikawa T, Ito H, Takahashi R, Ikeda A, Ohno Y. 2023 Imbalance of glutamatergic and GABAergic neurotransmission in audiogenic seizure-susceptible Leucine-rich glioma-inactivated 1 (Lgi1)-mutant rats. *Heliyon* **9(7)** : e17984, doi: 10.1016/j.heliyon.2023.e17984. PMID: 37539249

大野 行弘, 國澤 直史, 加藤 将貴, 清水 佐紀. 2023 ニコチンの運動興奮作用発現におけるアストサイトの役割. *喫煙科学研究財団研究年報 2022* : 187-190,

著書

大野 行弘, 清水 佐紀. 2023 「図解 薬害副作用学 改訂 3 版」, 南山堂 (東京), pp252-264

学会

加藤 将貴, 國澤 直史, 清水 佐紀, 松村 光紗, 徳山 尚吾, 池田 昭夫, 大野 行弘. 抗てんかん薬の反復的投与によるけいれん発作の予防効果および神経興奮性に及ぼす影響: 第 143 回 日本薬理学会近畿部会, 2023 年 6 月 (名古屋)

國澤 直史, 江原 滯, 河田 千佳, 後藤 光佑, 清水 佐紀, 大野 行弘. ニコチンによる運動興奮症状の発現におけるアストロサイトの関与: 第 143 回 日本薬理学会近畿部会, 2023 年 6 月 (名古屋)

河田 千佳, 國澤 直史, 後藤 光佑, 江原 滯, 清水 佐紀, 大野 行弘. ニコチンによる運動興奮症状発現におけるアストロサイト活性化の役割: 第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 (神戸)

後藤 光佑, 國澤 直史, 河田 千佳, 江原 滯, 清水 佐紀, 大野 行弘. フルオロクエン酸投与によるアストロサイト不活性化モデルの作成: 第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 (神戸)

菊池 絵理, 清水 佐紀, 石崎 悠斗, 下竹 昭寛, 宇佐美 清英, 松橋 眞生, 高橋 良輔, 大野 行弘, 池田 昭夫. 抗 LGI1 抗体の海馬内投与マウスにおけるけいれん感受性の評価: 第 53 回日本臨床神経生理学会学術大会, 2023 年 11 月 (福岡)

Ishizaki Y, Shimizu S, Seo H, Tahara T, Ohno Y. Effect of the Kir4.1 blocker, quinacrine, on lipopolysaccharide-induced cognitive impairment: 第 97 回 日本薬理学会年会・第 44 回日本臨床薬理学会学術総会, 2023 年 12 月 (神戸)

Kikuchi E, Shimizu S, Ishizaki Y, Shimotake A, Usami K, Matsuhashi M, Takahashi R, Ikeda A, Ohno Y. Effects of the intrahippocampal injection of anti-Lgil antibody on cognitive function and seizure susceptibility in mice: 第 97 回 日本薬理学会年会・第 44 回日本臨床薬理学会学術総会, 2023 年 12 月 (神戸)

石崎 悠斗, 清水 佐紀, 田原 拓真, 妹尾 帆夏, 波部 寛和, 武藤 瑠里, 大野 行弘. 神経炎症を伴う認知機能障害に対する Kir4.1 チャネル阻害薬の作用評価: 第 144 回 日本薬理学会近畿部会, 2023 年 3 月 (大阪)

國澤 直史, 清水 佐紀, 大野 行弘. フルオロクエン酸によるアストロサイトの不活性化がペンチレンテトラゾール誘発けいれんに及ぼす影響: 第 144 回 日本薬理学会近畿部会, 2023 年 3 月 (大阪)

日下 綾菜, 石崎 悠斗, 井上 莉歩, 楠野 将也, 清水 佐紀, 大野 行弘. Kir4.1 チャネル阻害薬 quinacrine の抗うつ効果におけるアストロサイトの関与: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

石崎 悠斗, 清水 佐紀, 妹尾 帆夏, 田原 拓真, 大野 行弘. Kir4.1 チャネル阻害薬 quinacrine の神経炎症を伴う認知機能障害に対する改善作用: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

学術論文

Nakahari T, Suzuki C, Kawaguchi K, Hosogi S, Tanaka S, Asano S, Inui T, Marunaka Y. 2023 Ambroxol-Enhanced Frequency and Amplitude of Beating Cilia Controlled by a Voltage-Gated Ca²⁺ Channel, Cav12, via pHi Increase and [Cl⁻]_i Decrease in the Lung Airway Epithelial Cells of Mice. *Int J Mol Sci* **24(23)** : 16976, doi: 10.3390/ijms242316976. PMID: 38069298

Kato R, Yamada T, Noda T, Tanaka S, Kohda Y, Ijiri Y. 2023 Mechanism of non-steroidal anti-androgen-induced liver injury: Reactive metabolites of flutamide and bicalutamide activate inflammasomes. *Toxicol In Vitro* **90** : 105606, doi: 101016/j.tiv.2023.105606

Yamada T, Kato R, Ijiri Y, Nishihara M, Neo M. 2023 Disproportionality analysis of acetaminophen-induced hepatic disorders with and without immune checkpoint inhibitors. *Int J Clin Pharm* **45(2)** : 442-450, doi: 101007/s11096-022-01527-z PMID: 36609809

大井一弥, 加藤隆児. 2023 薬学を基盤にした基礎と臨床の融合研究. *YAKUGAKU ZASSHI* **143(3)** : 237-238, doi: 10.1248/yakushi.22-00169-F

著書

加藤 隆児. 2024 III章疾患と薬物治療 消化器系疾患・30 胆管炎・胆嚢炎 「薬物治療学 改訂 13 版」, 南山堂 (東京), pp236-238

解説・プロシーディング・紀要・その他

加藤 隆児, 井尻 好雄. 2023 エザルミア®錠 50mg, 100mg. *調剤と情報* 29(6) : 928-938

加藤 隆児. 2023 術前に糖尿病治療薬を中止することが循環器合併症に与える影響について. *循環制御* 44(2) : 134-142

加藤 隆児. 2023 薬剤に対する過敏症. *循環制御* 44(1) : 57-63

加藤 隆児, 井尻 好雄. 2023 薬剤紹介 ケレンディア錠 10 mg, 20 mg(フィネレノン). *循環制御* 44(1) : 51-56

加藤 隆児. 2023 オープンアクセスジャーナルって何? *日本腎臓病薬物療法学会誌* 12(3) : 377-378

学会

Kato R. Development of a toxicity risk assessment system that considers the effects of nonparenchymal cells: The international joint meeting of the 23rd International Conference on Cytochrome P450 (ICCP450) and the 38th Annual Meeting of the Japanese Society for the Study of Xenobiotics (JSSX), 2023 年 9 月 (静岡)

加藤 隆児. これだけは知っておきたい! TDM に必要な薬物動態の基礎知識とその活用法. ベーシックレクチャー2「実は TDM が苦手なあなたへ! 症例から学ぶ TDM 実践 ~薬物動態の基礎知識と活かし方~」: 第 39 回 日本 TDM 学会・学術大会, 2023 年 6 月 (京都)

加藤 隆児. JSTDM-IATDMCT Joint Symposium 2023 in Asia: 第 39 回 日本 TDM 学会・学術大会, 2023 年 6 月 (京都)

加藤 隆児. TDM による重篤副作用の予測・予防の現状と課題: 第 39 回 日本 TDM 学会・学術大会, 2023 年 6 月 (京都)

加藤 隆児. がん分子標的薬 TDM の現状と今後の課題: 第 39 回 日本 TDM 学会・学術大会, 2023 年 6 月 (京都)

加藤 隆児. 薬剤師・薬学研究者が国際学会で発表することのメリット-国際学会で発表してみよう-. シンポジウム 5 皆さんの研究成果を世界に向けて発信してみませんか?: 第 17 回 日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会, 2023 年 10 月 (名古屋)

加藤 隆児. 腎機能評価における性差. シンポジウム 25「薬物療法における性差の課題について考えてみませんか? ~基礎と臨床からのアプローチ~」: 第 33 回 日本医療薬学会年会, 2023 年 11 月 (仙台)

加藤 隆児. TDM によるアセトアミノフェン誘発肝障害発症予測の可能性. 共催シンポジウム 1-C-S05「即時臨床応用のための TDM と臨床薬理を考える」: 第 97 回 日本薬理学会年会・第 44 回日本臨床薬理学会学術総会, 2023 年 12 月 (神戸)

野田 拓誠, 田中 早織, 幸田 祐佳, 井尻 好雄, 宮部 貴識, 加藤 隆児. Sunitinib 誘発肝障害の発症機序の解明とバイオマーカーの探索: 第 39 回 日本 TDM 学会・学術大会, 2023 年 6 月 (京都)

野田 拓誠, 浦嶋 和也, 田中 早織, 幸田 祐佳, 宮部 貴識, 加藤 隆児. Brigatinib 誘発性副反応の発症メカニズム -THP-1 細胞を用いた免疫活性化に関する検討-: 第 50 回 日本毒性学会学術年会, 2023 年 6 月 (横浜)

田中 早織, 野田 拓誠, 浦嶋 和也, 幸田 祐佳, 加藤 隆児. トロバフロキサシン誘発肝障害の発症機序の解明: 第 50 回 日本毒性学会学術年会, 2023 年 6 月 (横浜)

下村 梨央, 松本 風真, 田中 早織. 2型糖尿病合併脂質異常症モデルラットにおいて黒酢が血中脂質濃度にもたらす影響: 第73回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023年10月(神戸)

野田 拓誠, 浦嶋 和也, 田中 早織, 幸田 祐佳, 宮部 貴識, 加藤 隆児. リファンピシン併用によるロルラチニブ誘発性肝障害の発症メカニズムの解明 -THP-1細胞を用いた免疫活性化に関する検討-: 第33回 日本医療薬学会年会, 2023年11月(仙台)

相原 慎和, 幸田 祐佳, 松村 人志, 古川 初花, 畑 涼子, 小島 千穂, 花本 京香, 藤岡 央, 中村 有結, 田中 早織, 福石 信之, 加藤 隆児. 肥満を伴う糖尿病状態のラット脳内におけるオレキシン受容体発現の変動: 第144回 日本薬理学会近畿部会, 2023年3月(大阪)

植村 健矢, 天野 悠斗, 大野 友裕, 川合 咲希, 山本 紗也, 田中 早織, 幸田 祐佳, 井尻 好雄, 林 哲也, 加藤 隆児. ミネラルコルチコイド拮抗薬スピロラクトンの肺血管リモデリングに対する作用の検討: 日本薬学会 第144年会, 2024年3月(横浜)

高田 羽菜, 岡田 真緒, 澤見 歩佳, 平井 美愛, 西田 菜月, 田中 早織, 幸田 祐佳, 井尻 好雄, 林 哲也, 加藤 隆児. ヒト血管内皮細胞に対するミネラルコルチコイド受容体ブロッカーエサキセレノンのインフラマソーム抑制作用の検討: 日本薬学会 第144年会, 2024年3月(横浜)

田中 早織, 野田 拓誠, 浦嶋 和也, 幸田 祐佳, 加藤 隆児. トロバフロキサシン誘発肝障害の発症時に放出されるDAMPsの検討: 日本薬学会 第144年会, 2024年3月(横浜)

加藤 隆児. 共有結合医薬品と特異体質性薬物 副反応の関連性-発症機構の解明とその予測予防法の開発-: 日本薬学会東海支部特別講演会, 2024年1月(鈴鹿)

幸田 祐佳, 福石 信之, 松村 人志. Effect of thiamine supplementation on orexin A level in obese diabetic rats: 第50回 日本毒性学会学術年会, 2023年6月(横浜)

薬物治療学Ⅱ研究室

特許

福森 亮雄, 柳田 寛太, 岡田 健, 高野 結月. IL3Ra 断片ペプチド及びその製造方法. **特願 2023-121004** 大阪医科薬科大学

福森 亮雄, 岡田 健, 柳田 寛太, 松永 秀典, 汐崎 優衣. 自己抗体を検出するためのイムノクロマト検査キット及びそれを用いた自己抗体を検出する方法. **特願 2023-208233** 大阪医科薬科大学

福森 亮雄, 柳田 寛太, 村上 至仁, 岡田 健. Tmem119 断片ペプチド及びその製造方法. **特願 2023-213346** 大阪医科薬科大学

学会

Fukumori A, Maruyama R, Funamoto S, Kudo T, Steiner H. g-Secretase exosites as targets for substrate-selective inhibition of intramembrane proteolysis: 12th General Meeting of the International Proteolysis Society, 2023 年 6 月 (シンガポール)

萩原 大耀, 田中 晶子, 佐藤 浩平, 間瀬 暢之, 福森 亮雄, 鳴海 哲夫. アミロイドペプチド A β 49 の合成研究: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

乾 菜々美, 柳田 寛太, 新宮 愛, 山口 敬子, 岡田 健, 福森 亮雄. 自閉症の原因遺伝子である NLGN4 の切断: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

寺井 つくし, 柳田 寛太, 新宮 愛, 山口 敬子, 岡田 健, 福森 亮雄. 慢性炎症性脱髄性多発神経炎に関連する分子である neurofascin の代謝: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

徳山 聖祐, 柳田 寛太, 新宮 愛, 山口 敬子, 岡田 健, 福森 亮雄. 認知機能に関与するシナプス分子である LRRC4B の g-セクレターゼによる代謝について: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

中尾 和都, 柳田 寛太, 新宮 愛, 山口 敬子, 岡田 健, 福森 亮雄. L1CAM の膜の内外でのプロテアーゼ切断: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

長谷 萌花, 柳田 寛太, 新宮 愛, 山口 敬子, 岡田 健, 福森 亮雄. ミクログリアが A β を認識し貪食する際に利用するタンパク質である AXL の g-セクレターゼによる切断: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

福永 幸祐, 柳田 寛太, 新宮 愛, 山口 敬子, 岡田 健, 福森 亮雄. 膜内プロテアーゼである g-セクレターゼによる Ephrin-B3 の切断: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

村上 至仁, 柳田 寛太, 新宮 愛, 山口 敬子, 岡田 健, 福森 亮雄. 脳ミクログリアに特異的に発現する TMEM119 のプロテアーゼによる代謝: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

汐崎 優衣, 北岡 京花, 岡田 健, 山口 敬子, 加藤 隆児, 柳田 寛太, 清水 幹人, 坂口 学, 松永 秀典, 福森 亮雄. 抗 NMDA 受容体脳炎の患者の髄液中の抗体の新規検出法: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

石原 千華, 岡田 健, 田口 和美, 山口 敬子, 加藤 隆児, 新宮 愛, 柳田 寛太, 清水 幹人, 坂口 学, 松永 秀典, 福森 亮雄. 抗 AMPA 受容体脳炎 1 例の髄液中の抗体の標的サブユニットと抗原決定基: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

高津 翔大, 柳田 寛太, 山口 敬子, 岡田 健, 福森 亮雄. ミミズ抽出液は培養細胞上清中のタウへ分解作用を示す: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

中嶋 美奈, 岡田 健, 柳田 寛太, 西田 沙妃, 福森 亮雄, 田中 稔久. 認知症関連蛋白であるタウ蛋白の重合過程における蛋白間分子架橋の影響についての検討: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

病態生化学研究室

学術論文

Pan L, Trimarco A, Zhang AJ, Fujimori K, Urade Y, Sun LO, Taveggia C, Zhang Y. 2023 Oligodendrocyte-lineage cell exocytosis and L-type prostaglandin D synthase promote oligodendrocyte development and myelination. *eLife* **12** : e77441, doi: 10.7554/eLife.77441. PMID: 36779701

Yamashita Y, Gohda K, Iguchi Y, Fujimori K, Oda K, Masuda A, Une M, Teno N. 2023 Discovery of FXR/PPAR α dual partial agonist. *Bioorg Med Chem* **85** : 117238, doi: 10.1016/j.bmc.2023.117238. PMID: 37028120

Fujita S, Kadota K, Koike A, Uchiyama H, Tozuka Y, Tanaka S. 2024 “Wash-free” synthesis of cyclodextrin metal-organic frameworks. *RSC. Mechanochemistry*, **1** : 153-157, doi: 10.1039/D3MR00006K

Nakatsuji M, Sato N, Sakamoto S, Watanabe K, Teruuchi Y, Takeuchi M, Inui T, Ishihara H. 2023 Non-electrostatic interactions associated with aggregate formation between polyallylamine and Escherichia coli. *Sci Rep* **13(1)** : 14793, doi: 10.1038/s41598-023-42120-2. PMID: 37684326

学会

中辻 匡俊, 藤森 功. 肥満によるエストロゲン受容体陽性乳癌の Tamoxifen 耐性獲得機構の解明: 第 69 回 日本生化学会近畿支部例会, 2023 年 5 月 (京都)

細見 健太, 前原 都有子, 藤森 功. H-PGDS 阻害剤による急性膵炎の抑制機構の解析: 第 69 回 日本生化学会近畿支部例会, 2023 年 5 月 (京都)

林 薫子, 小池 敦資, 藤森 功. 肺線維症急性増悪における炎症誘導機構の解析: 第 69 回 日本生化学会近畿支部例会, 2023 年 5 月 (京都)

細見 健太, 前原 都有子, 藤森 功. H-PGDS 阻害剤は急性膵炎の炎症を抑制する: 第 65 回 日本脂質生化学会, 2023 年 6 月 (熊本)

中辻 匡俊, 長櫓 侑希, 藤森 功. 肥満による乳癌の薬剤耐性獲得における Hippo 経路の関与: 第 65 回 日本脂質生化学会, 2023 年 6 月 (熊本)

細見 健太, 中辻 匡俊, 前原 都有子, 藤森 功. H-PGDS 阻害剤によるセルレイン誘発性急性膵炎の炎症抑制機構の解析: 第 22 回 次世代を担う若手のためのファーマ・バイオフィォーラム 2023, 2023 年 9 月 (福岡)

林 薫子, 小池 敦資, 藤森 功. 薬剤誘導性肺線維症の急性増悪機構の解析: 第 22 回 次世代を担う若手のためのファーマ・バイオフィォーラム 2023, 2023 年 9 月 (福岡)

中辻 匡俊, 藤森 功. 肥満によるエストロゲン受容体陽性乳癌のホルモン療法耐性獲得機構の解明: 第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 (神戸)

越野 ひなた, 中辻 匡俊, 藤森 功. 癌微小環境において脂肪細胞がトリプルネガティブ乳癌の転移能に与える影響: 第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 (神戸)

小池 敦資, 藤森 功. Necrosulfonamide によるすい臓がん細胞株の細胞死誘導機構の解析: 第 96 回 日本生化学会, 2023 年 10 月 (福岡)

中辻 匡俊, 藤森 功. 脂肪細胞の培養上清を加えて培養することによる ER 陽性乳癌の Tamoxifen 耐性に Hippo 経路が関係する: 第 96 回 日本生化学会, 2023 年 10 月 (福岡)

栗栖 桜子, 越野 ひなた, 中辻 匡俊, 藤森 功. 癌微小環境における脂肪細胞によるトリプルネガティブ乳癌細胞の遊走促進: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

林 薫子, 小池 敦資, 中辻 匡俊, 細見 健太, 藤森 功. 肥満がブレオマイシン誘導性肺線維症に及ぼす影響の解析: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

細見 健太, 中辻 匡俊, 大西 悠介, 川畑 茂, 廣瀬 善信, 藤森 功. H-PGDS 阻害剤による急性膵炎の炎症制御: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

中辻 匡俊, 藤森 功. 脂肪細胞によるエストロゲン受容体陽性乳癌のタモキシフェン耐性の獲得: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

小池 敦資, 藤森 功. 膵臓がん細胞における necrosulfonamide の細胞死誘導機構の解析: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

生体分析学研究室

学術論文

Hirano F, Kondo N, Murata Y, Sudani A, Temma T. 2024 Assessing the effectiveness of fluorinated and α -methylated 3-boronophenylalanine for improved tumor-specific boron delivery in boron neutron capture therapy. *Bioorg Chem* **142** : 106940, doi: 10.1016/j.bioorg.2023.106940. PMID: 37939508

学会

Hirano F, Kondo N, Murata Y, Sudani A, Temma T. Development of fluorinated α -methyl-3BPA derivatives for BNCT/PET theranostics: Annual Congress of the European Association of Nuclear Medicine 2023, 2023 年 9 月 (オーストリア)

Takada S, Kondo N, Temma T, Hagimori M. Development of a boronic acid targeting fluorescent sensor for evaluation of intracellular localization and quantification of blood concentration of boronoagents for BNCT: Annual Congress of the European Association of Nuclear Medicine 2023, 2023 年 9 月 (オーストリア)

天満 敬. BNCT の発展のための薬剤開発に関する研究: 大阪医科薬科大学第一回 BNCT 研究会, 2023 年 6 月 (高槻)

天満 敬, 宮崎 杏奈, 金井 泰和, 若森 恵太, 高田 慎也, 平野 楓子, 近藤 直哉. シグナル伝達兼転写活性化因子 3 の PET イメージングを目的とした $[^{18}\text{F}]$ KYZ3 の開発に関する研究: 第 17 回 日本分子イメージング学会総会・学術集会, 2023 年 6 月 (仙台)

森崎 七海, 近藤 直哉, 天満 敬. 自己集合による細胞内滞留を指向したメラノーマ標的 BNCT/SPECT 用薬剤の開発: 第 35 回 バイオメディカル分析科学シンポジウム, 2023 年 7 月 (札幌)

天満 敬. 生体内 MMP のインビボイメージングのための分子プローブ開発研究: 第 28 回 日本病態プロテアーゼ学会学術集会, 2023 年 8 月 (高槻)

二木 未来哉, 金井 泰和, 若森 恵太, 近藤 直哉, 天満 敬. ポジトロン断層撮像法による活性化 p38 α イメージングのための放射性フッ素標識 R1487 の合成: 第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 (神戸)

宮崎 杏奈, 飯尾 友李佳, 金井 泰和, 若森 恵太, 水口 芹奈, 二木 未来哉, 平野 楓子, 近藤 直哉, 天満 敬. STAT3 を標的とした PET 用イメージングプローブの有効性評価に関する検討: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

林 舞子, 宮崎 杏奈, 高橋 寛翔, 若森 惠太, 水口 芹奈, 二木 未来哉, 平野 楓子, 近藤 直哉, 天満 敬. STAT3 を標的とした SPECT 用イメージングプローブの合成と評価: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

近藤 直哉, 河野 碧海, 瓜生 真唯, 平野 楓子, 水口 芹奈, 天満 敬. PSMA への不可逆的放射標識を目指した放射性ヨウ素標識ペプチドの開発: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

平野 楓子, 近藤 直哉, 金井 泰和, 鈴木 健介, 天満 敬. 高い腫瘍特異的集積性を目指した 5-[18F]F-aMe-3BPA の LAT1 標的イメージングプローブとしての有効性評価: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

水口 芹奈, 宮崎 杏奈, 近藤 直哉, 天満 敬. 活性酸素種の核医学イメージングのための放射性ヨウ素標識プローブの開発: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

薬剤学研究室

総説

永井 純也. 2023 6 年制課程薬学部学生の研究活動について —医療系総合大学薬学部教員としての一考察—. *薬学教育* 7 : 2023-014, doi: 10.24489/jjphe.2023-014

著書

永井 純也. 2023 5 章 排泄 1 腎排泄, 「生物薬剤学 改訂第 4 版」谷川原祐介・井上勝央 編集, 南江堂 (東京), pp138-146

学会

竹林 裕美子, 太田 有紀, 佐藤 涼, 越智 文歌, 本橋 秀之, 永井 純也. ドキソルビシンを負荷したヒト脂肪幹細胞由来条件培地の殺細胞効果: 日本薬剤学会 第 38 年会, 2023 年 5 月 (名古屋)

永井 純也, 櫻井 萌, 光来 もも, 濱口 真歩, 津田 裕里, 竹林 裕美子, 本橋 秀之, 大野 芳正. 腎近位尿細管上皮細胞株 HK-2 における HIF-1 活性化に及ぼす EP レセプターアゴニストの影響: 日本薬物動態学会第 38 回年会, 2023 年 9 月 (静岡)

田中 衛, 吉永 実紅, 竹林 裕美子, 本橋 秀之, 永井 純也. ヒト近位尿細管上皮細胞株 RPTEC/TERT1 及び HK-2 を用いたベンダムスチンの細胞内蓄積における薬物トランスポーターの役割の解析: 日本薬物動態学会第 38 回年会, 2023 年 9 月 (静岡)

藤原 祥史, 小島 祐輝, 満屋 領, 竹林 裕美子, 本橋 秀之, 永井 純也. ヒト脂肪幹細胞由来順化培地によるドキソルビシン誘発細胞障害に対する保護効果: 第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 (神戸)

竹林 裕美子, 小崎 寧々, 吉村 昌浩, 本橋 秀之, 永井 純也. ヒト脂肪幹細胞におけるカルニチン輸送特性: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

本橋 秀之. 医薬品情報を読み解くための「生物薬剤学」: 第 25 回 日本医薬品情報学会総会・学術大会, 2023 年 6 月 (京都)

学術論文

Kämäräinen T, Kadota K, Tse JY, Uchiyama H, Oguchi T, Arima-Osonoi H, Tozuka Y. 2023 Tuning phyto glycogen size and aggregate structure with solvent quality: Influence of water-ethanol mixtures revealed by X-ray and light scattering techniques . *Biomacromolecules* **24(1)** : 225-237, doi: 10.1021/acsbiomac2c01093 PMID: 36484419

Hatanaka Y, Uchiyama H, Furukawa S, Takase M, Yamanaka S, Kadota K, Tozuka Y. 2023 Effect of solubility improvement via formation of an amorphous composite of indomethacin and sulindac on membrane permeability . *Chem Pharm Bull* **71(3)** : 257-261, doi :10.1248/cpb.c22-00847

Kadota K, Tse JY, Fujita S, Suzuki N, Uchiyama H, Tozuka Y, Tanaka S. 2023 Drug-facilitated crystallization of spray-dried CD-MOFs with tunable morphology, porosity, and dissolution profile. *ACS Appl Bio Mater* **6(9)** : 3451-3462, doi: 10.1021/acsabm.3c00162

Kämäräinen T, Kadota K, Arima-Osonoi H, Uchiyama H, Tozuka Y. 2023 Tailoring the self-assembly of steviol glycoside nanocarriers with steroidal amphiphile . *ACS Biomater Sci Eng* **9** : 5747, doi: 10.1021/acsbiomaterials.3c01264

Uchiyama H, Hanamoto Y, Hatanaka Y, Kadota K, Tozuka Y. 2023 The enhanced skin permeation of flavonoids via the application of a coamorphous in a microemulsion formulation. *J Pharm Sci* **112(12)** : 3067-3074, doi: 10.1016/j.xphs.2023.06.011

Kadota K, Kämäräinen T, Sakuma F, Ueda K, Higashi K, Moribe K, Uchiyama H, Minoura K, Tozuka Y. 2023 Unveiling the solubility enhancement of flavone via α -glucosyl rutin and hesperidin: Probing the structural differences through NMR and SAXS analysis. *Food Funct* **14(23)** : 10493-10505, doi: 10.1039/d3fo03261b. PMID: 37938858

Ueda H, Hirakawa Y, Miyano T, Nakayama Y, Hatanaka Y, Uchiyama H, Tozuka Y, Kadota K. 2023 Improvement in Inhalation Properties of Theophylline and Levofloxacin by Co-Amorphization and Enhancement in Its Stability by Addition of Amino Acid as a Third Component. *Mol Pharm* **20(12)** : 6368-6379, doi: 10.1021/acs.molpharmaceut.3c00756

Fukada M, Kadota K, Nogami S, Uchiyama H, Shirakawa Y, Tozuka Y. 2023 Development of bitter-taste masked instant jelly formulations of diphenhydramine hydrochloride with easy-to-consume granules. *Chem Pharm Bull (Tokyo)* **71(8)** : 670-674, doi: 10.1248/cpb.c23-00247. PMID: 37532538

Hatanaka Y, Uchiyama H, Kaneko S, Ueda K, Higashi K, Moribe K, Furukawa S, Takase M, Yamanaka S, Kadota K, Tozuka Y. 2023 Designing a novel coamorphous salt formulation of telmisartan with amlodipine to enhance permeability and oral absorption. *Mol Pharm* **20(8)** : 4071-4085, doi: 10.1021/acs.molpharmaceut.3c00226

Ban K, Imai K, Oyama S, Tokunaga J, Ikeda Y, Uchiyama H, Kadota K, Tozuka Y, Akai S, Sawama Y. 2023 Alkyl Sulfonium Salt-based Reagents for Introduction of Deuterated Alkyl Groups in Drug Discovery . *Angew Chem Int Ed* **62** : e202311058, doi: 10.1002/anie.202311058

Uchiyama H, Ban K, Nozaki S, Ikeda Y, Ishimoto T, Fujioka H, Kamiya M, Amari R, Tsujino H, Arai M, Yamazoe S, Maekawa K, Kato T, Doi M, Kadota K, Tozuka Y, Tomita N, Sajiki H, Akai S, Sawama Y. 2023 Impact of Multiple H/D Replacement on the Physicochemical Properties of Flurbiprofen. *RSC Med Chem* **14(12)** : 2583-2592, doi: 10.1039/d3md00357d. PMID: 38107175

総説

Uchiyama H, Kadota K, Tozuka Y. 2023 A review of transglycosylated compounds as food additives to enhance the solubility and bioavailability of active components with poor aqueous solubility. *Crit Rev Food Sci Nutr* **63(32)** : 11226-11243, doi: 10.1080/10408398.2022.2092056. PMID: 35757865

門田 和紀, 内山 博雅, 田中 俊輔, 戸塚 裕一. 2023 機能性素材を利用した薬物含有微粒子設計および吸入粉末剤への適用. *ファインケミカル* **52(6)** : 5-12

著書

戸塚 裕一 (分担執筆) . 2023 「基礎と臨床をつなぐ物理薬剤学・製剤学」, 南山堂 (東京), pp180-184, pp282-286

解説・プロシーディング・紀要・その他

門田 和紀, 内山 博雅, 戸塚 裕一. 2023 流体力学シミュレーションを活用した吸入剤適正使用・適正評価への貢献. *薬剤学* **83(3)** : 119-123

特許

田中 俊輔, 中島 稔生, 藤田 修平, 門田 和紀, 戸塚 裕一, 内山 博雅. 多孔性担体粒子およびその製造方法. **特願 2023-132693** 関西大学, 大阪医科薬科大学

中西 章仁, タンジャ マハマドゥ, 戸塚 裕一, 門田 和紀, 内山 博雅. グルコシルナリンジンを含む皮膚透過性促進剤. **特願 2023-123149** 東洋精糖

学会

Tozuka Y, Taike S, Minoura K, Uchiyama H, Shirakawa Y, Yusof YA, Kadota K. A jelly formulation design for suppressing bitter taste of catechin: 20th APCCHE2023, 2023 年 9 月 (フィリピン)

Kadota K, Ohnishi A, Uchiyama H, Shirakawa Y, Yusof YA, Tozuka Y. Design of jelly formulations improved solubility of poorly-water soluble polyphenols: 20th APCCHE2023, 2023 年 9 月 (フィリピン)

安藤 憲太, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一. グリチルリチン酸モノアンモニウムが形成するゾルおよびゲルの物性に関する検討: 日本薬剤学会 第 38 年会, 2023 年 5 月 (名古屋)

池田 唯, 内山 博雅, 澤間 善成, 門田 和紀, 戸塚 裕一. 重水素化フルルビプロフェンの物理化学的性質および膜透過性の評価: 日本薬剤学会 第 38 年会, 2023 年 5 月 (名古屋)

青木 隆成, 安永 綾佳, 内山 博雅, 門田 和紀, 寺岡 誠, 戸塚 裕一. 乾式コーティングによる不快な味抑制微粒子の設計と味覚センサー評価: 日本薬剤学会 第 38 年会, 2023 年 5 月 (名古屋)

中山 結月, T O Kämäräinen, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一. アミロイドナノフィブリルをバインダーとした薬物含有超微粒子集合体: 日本薬剤学会 第 38 年会, 2023 年 5 月 (名古屋)

田川 岳, 阿波 里佳, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一. シクロデキストリンによるブラックジンジャー由来ポリメトキシフラボンの可溶化: 第 39 回 シクロデキストリンシンポジウム, 2023 年 9 月 (名古屋)

安藤 憲太, 内山 博雅, 箕浦 克彦, 門田 和紀, 戸塚 裕一. グリチルリチン酸モノアンモニウムの分子集合体形成と薬物の可溶化機構の検討: 第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 (神戸)

畑中 友太, 青木 隆成, 安永 綾佳, 内山 博雅, 寺岡 誠, 門田 和紀, 戸塚 裕一. 乾式コーティング法によるマスキング微粒子設計の最適化と味評価: 第 40 回 製剤と粒子設計シンポジウム, 2023 年 11 月 (姫路)

田中 俊輔, 藤田 脩平, 門田 和紀, 内山 博雅, 戸塚 裕一. 生体適合・生分解性 CD-MOF の合成の洗浄レス化と医薬応用: 第 39 回 ゼオライト研究発表会, 2023 年 11 月 (東京)

藤田 脩平, 田中 俊輔, 門田 和紀, 内山 博雅, 戸塚 裕一. メカノケミカル法を用いた CD-MOF の合成と薬物導入: 第 36 回 日本吸着学会, 2023 年 12 月 (金沢)

莫 佩文, 畑中 友太, 内山 博雅, 門田 和紀, 土井 光暢, 戸塚 裕一. 噴霧乾燥法による 4-aminosalicylic acid-isoniazid 共結晶吸入製剤の設計: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

中山 結月, Kämäräinen TO, 内山 博雅, 門田 和紀, 土井 光暢, 戸塚 裕一. Carvedilol を含有した様々な粒子形態を持つ Supraparticles の作製: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

社会薬学・薬局管理学的研究室

学術論文

Shoji M, Sakane N, Ito N, Sunayama K, Onda M. 2024 A qualitative study on the process of dietitians working in pharmacies to practice dietary habit improvement support in their daily work. *Pharm Pract (Granada)* **22(1)** : 2913, doi: 10.18549/PharmPract.2024.1.2913

Mittal S, Okada H, Bermingham M, Onda M, Farrelly S, Zaki M, Nakayama T. 2023 Community Pharmacists' Attitude, Practice and Confidence in Supporting People with Diabetes in Japan and Ireland: A Cross-sectional Survey. *Yakugaku Zasshi* **143(10)** : 871-879, doi: 10.1248/yakushi.23-00064. PMID: 37779017

総説

庄司 雅紀. 2023 薬局管理栄養士の職能発揮の現況と課題 : PEST 分析を用いた検討. *薬局薬学* **15(2)** : 63-68, doi: 10.32160/yakkyoku.ra.2023-3000

著書

恩田 光子. 2023 1. 薬剤師に関わる法令と倫理規範・2-4 薬剤師・2-8 副作用被害と薬害・4 地域における薬局と薬剤師, 「薬事法規・制度・倫理マニュアル」編著, 南山堂(東京), pp1-9, pp18-24, pp109-113, pp191-209

恩田 光子. 2024 13 章 保健医療統計, 「新スタンダード薬学シリーズ第2巻社会と薬学」, 東京化学同人(東京), pp321-329

解説・プロシーディング・紀要・その他

恩田 光子. 2024 第4章 アメリカにおける調査結果. 令和5年度厚生労働省保健局医療課による委託事業「薬剤使用状況等に関する調査研究報告書」: 1-75

恩田 光子. 2023 【こんなときはどの検定?臨床研究から学ぶ"逆引き"統計】第3章 仮説検定編 ノンパラメトリック検定 医薬品の薬効を示すピクトグラムの一必要性を検定したい→独立性の χ^2 検定<2×2分割表>. *調剤と情報* **29(10)** : 1693-1697

恩田 光子. 2023 【こんなときはどの検定?臨床研究から学ぶ"逆引き"統計】第2章 回帰分析編 回帰分析 特別養護老人ホームにおける多剤併用高齢者の転倒への影響因子とその影響度を評価したい→ロジスティック回帰分析. *調剤と情報* **29(10)** : 1611-1618

恩田 光子. 2023 【こんなときはどの検定?臨床研究から学ぶ"逆引き"統計】第1章 統計学の用語と基礎知識 第一種の過誤と第二種の過誤. *調剤と情報* **29(10)** : 1588-1589

庄司 雅紀. 2023 【こんなときはどの検定?臨床研究から学ぶ"逆引き"統計】第6章 練習問題 適切な研究プロトコル作成の重要性. *調剤と情報* **29(10)**: 1588-1590

庄司 雅紀. 2023 【こんなときはどの検定?臨床研究から学ぶ"逆引き"統計】第1章 統計学の用語と基礎知識 データの表示方法. *調剤と情報* **29(10)**: 1588-1591

庄司 雅紀. 2023 【こんなときはどの検定?臨床研究から学ぶ"逆引き"統計】第1章 統計学の用語と基礎知識 データの種類と尺度と特性値. *調剤と情報* **29(10)**: 1514-1519

庄司 雅紀. 2023 薬局に勤務する管理栄養士と薬剤師の協働による2型糖尿病患者支援の効果に関する前後比較試験 PDCA study. *調剤と情報* **29(10)**: 1459-1463

学会

庄司 雅紀, 坂根 直樹, 伊藤 直紀, 砂山 慶次, 北村 明日香, 花原 凜, 魚住 友里恵, 恩田 光子. 薬局薬剤師と管理栄養士の実症例を通じた連携学習「くすりと食事研究会」の実施及び評価: 第8回 日本薬学教育学会大会, 2023年8月(熊本)

庄司 雅紀, 寺前 成美, 恩田 光子. 地域薬局における骨粗鬆症の予防・啓発活動に関するスコーピングレビュー: 第33回 日本医療薬学会年会, 2023年11月(仙台)

庄司 雅紀, 坂根 直樹, 伊藤 直紀, 砂山 慶次, 恩田 光子. 薬局管理栄養士と薬剤師の協働による高血圧症患者の食事支援効果の検証—スタディプロトコル: 日本社会薬学会 第41年会, 2023年9月(東京)

上神 友美絵, 庄司 雅紀, 恩田 光子. 薬局薬剤師と薬局管理栄養士の協働による治療効果に関するスコーピングレビュー: 日本薬学会 第144年会, 2024年3月(横浜)

岡井 彩夏, 庄司 雅紀, 恩田 光子. 薬局薬剤師による糖尿病患者に対する運動療法, 健康教室の効果に関するスコーピングレビュー: 日本薬学会 第144年会, 2024年3月(横浜)

恩田 光子. 認知症患者に対する家族介護者の服薬介助の負担感と影響要因: 日本薬学会 第144年会, 2024年3月(横浜)

船橋 英奈, 伊藤 将, 前田 守, 長谷川 佳孝, 月岡 良太, 恩田 光子. 有害事象自発報告データベースおよびレセプトデータベースを用いたジパプチジルペプチダーゼ-4阻害薬による上部消化管症状発現リスクの解析: 日本薬学会 第144年会, 2024年3月(横浜)

佐藤 ユリ, 太田 貴之, 朝倉 敏夫, 国井 亨, 畠 玲子, 菅谷 貴之, 恩田 光子. 調剤前確認を取り入れた副作用モニタリングプログラムに対する患者及び薬剤師の評価: 第 17 回 日本薬局学会学術総会, 2023 年 10 月 (名古屋)

室谷 成穂, 庄司 雅紀, 恩田 光子. 薬学部生に対する認知行動変容アプローチに基づく服薬支援演習の実施報告-受講者の立場から-: 第 17 回 日本薬局学会学術総会, 2023 年 10 月 (名古屋)

臨床漢方薬学研究室

学術論文

佐藤 豊三, 吉永 実記, 五十嵐 元子, 埋橋 志穂美, 芝野 真喜雄. 2023 *Fusarium vanettenii* によるスペインカンゾウ株枯病(新称). *関東東山病害虫研究会報* **70**: 15-18,

野崎 香樹, 古平 栄一, 小島 正明, 安藤 匡哉, 芝野 真喜雄. 2024 筒栽培における筒の長さおよび地温がムラサキの根部の生育および色素形成に及ぼす影響. *日本植物園協会誌* **58**: 62-71,

学会

松永 胡桃, 松田 昂樹, 芝野 真喜雄. 六味地黄丸の老化細胞に対する抗炎症効果: 第 69 回 生薬学会年会, 2023 年 9 月 (宮城)

芝野 真喜雄, 力弓 久夫, 田口 正久, 佐藤 八郎, 松田 昂樹, 尾崎 和男, 古平 栄一. ジャノヒゲとセッコウリュウノヒゲの実証栽培試験より得られた課題と考察について: 薬用植物栽培研究会 第 5 回研究総会, 2023 年 12 月 (鳥取)

尾崎 和男, 松田 昂樹, 芝野 真喜雄. キキョウの種子生産とその出芽特性について (その 2): 薬用植物栽培研究会 第 5 回研究総会, 2023 年 12 月 (鳥取)

照井 正樹, 熊谷 和幸, 佐藤 博昭, 和田 浩司, 飯田 修, 尾崎 和男, 芝野 真喜雄. 秋田県美郷町におけるエイジツ生産の試み ノイバラ真果における *multiflorin* 類の季節的変動: 薬用植物栽培研究会 第 5 回研究総会, 2023 年 12 月 (鳥取)

古平 栄一, 木村 友紀, 笹森 菜穂, 尾崎 和男, 芝野 真喜雄. ジャノヒゲにおけるキトサンおよび酸化型グルタチオン処理が根の膨大部形成に及ぼす影響: 薬用植物栽培研究会 第 5 回研究総会, 2023 年 12 月 (鳥取)

松田 昂樹, 芝野 真喜雄. 加熱処理生薬・清炒麻黄の標準化 -分光測色計を用いた色による規定-: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

臨床薬学教育研究センター

学術論文

Hirai T, Ueda S, Ogura T, Katayama K, Doh K, Hosohata K, Aoyama T, Matsumoto Y, Iwamoto T. 2023 Hyperkalemia by eplerenone or esaxerenone in the presence or absence of clarithromycin in hypertensive patients: a retrospective observational cohort study. *J Hypertens* **41(4)** : 580-586, doi: 10.1097/HJH0000000000003372. PMID: 36655800

Kumagai E, Furumachi K, Kurihara A, Hosokawa K, Hosohata K, Takai S. 2023 Zinc Acetate Hydrate Supplementation versus Polaprezinc Supplementation for Improving Hypozincemia in Hemodialysis Patients: A Randomized Clinical Trial. *Int J Nephrol* **2023 Oct 5** : 2403755, doi: 10.1155/2023/2403755. PMID: 37840640

Hosohata K. 2023 Impact of medication adherence on renal denervation trials in resistant hypertensive patients. *Hypertens Res* **46(10)** : 2419-2420, doi: 10.1038/s41440-023-01381-0 PMID: 37532954

Kozaru M, Iida T, Hosohata K. 2023 A Pharmacovigilance Study of Drug-Induced Glaucoma Utilizing the Japanese Adverse Event Reporting System. *Clin Ophthalmol* **17** : 3645-3653, doi: 10.2147/OPHTH.S439255. PMID: 38050555

Kanbayashi Y, Uchida M, Nakano K, Wakabayashi H, Shimizu T. 2023 Evaluation of Cardiac Adverse Events with Ponatinib Using a Spontaneous Reporting Database Oncology. *Oncology* **101(6)** : 397-405, doi: 10.1159/000529768. PMID: 37075717

Kanbayashi Y, Taguchi T, Ishikawa T, Otsuji E, Takayama K. 2023 Risk Factors of Capecitabine-Induced Hand-Foot Syndrome: A Single-Institution, Retrospective Study. *Oncology* **101(7)** : 407-414, doi: 10.1159/000529851. PMID: 37075722

Kanbayashi Y, Kobayashi M, Anzai M, Shimizu T, Uchida M. 2023 Evaluation of Time to Onset and Outcome of Lung Adverse Events Related to Pembrolizumab Using Marketing Surveillance. *Oncology* **101(12)** : 817-821, doi: 10.1159/000533302. PMID: 37591211

Kanbayashi Y, Kojima A, Wakabayashi H, Shimizu T, Uchida M. 2023 Evaluation of Time to Onset and Outcome of Cardiac Adverse Events Associated with Nilotinib using Post-Marketing Surveillance. *Oncology* **101(12)** : 799-807, doi: 10.1159/000533325. PMID: 37598671

Kanbayashi Y, Shimizu T, Anzai M, Kawai R, Uchida M. 2023 Evaluation of Cardiac Adverse Events with Nivolumab Using a Japanese Real-World Database. *Clin Drug Investig* **43(3)** : 177-184, doi: 101007/s40261-023-01246-x PMID: 36780109

Kanbayashi Y, Shimizu T, Kojima A, Anzai M, Kawai R, Uchida M. 2023 Evaluation of lung adverse events with nivolumab using the spontaneous reporting system in Japan. *Sci Rep* **13(1)** : 8819, doi: 10.1038/s41598-023-35602-w. PMID: 37258564

Kanbayashi Y, Ishikawa T, Otsuji E, Takayama K. 2024 Predictors for the development of thromboembolic events in cancer patients treated with bevacizumab, ramucirumab, and aflibercept: a single-institution retrospective analysis. *Oncology* **102(7)** : 604-610, doi: 101159/000536187. PMID: 38198783

竹中 裕美, 和田恭一, 瀬口 理, 戸田 紘一, 黒田 健輔, 築瀬 正伸, 福寫 教偉. 2023 心臓移植待機中に代謝クライシスを発症し, 急性期に慎重な栄養管理を要したプロピオン酸血症の1例. *JSPEN (J JSPEN)* **5(5)** : 137-142, 10.11244/ejspen.5.5_137

総説

細畑 圭子. 2023 大規模医薬品有害事象データベースを用いたインフリキシマブ先行品とバイオシミラーの安全性評価. *アレルギーの臨床* **43** : 63-66

松岡 裕之, 細畑 圭子. 2023 新型コロナウイルス感染症抗原定性検査キットの利点と欠点. *BIO Clinica* **38** : 43-46

細畑 圭子, 熊谷 悦子. 2024 高齢者における低用量プロトンポンプ阻害薬と慢性腎臓病との関連. *アレルギーの臨床* **44** : 68-71

著書

Hosohata K. 2023 Involvement of ferroptosis in lupus nephritis, 「Ferroptosis in Health and Disease」, Daolin Tang, Springer (シンガポール), pp329-346, doi: org/10.1007/978-3-031-39171-2

中村 敏明. 2024 検査値リスト, 「治療薬ハンドブック 2024」高久 史磨 監修, 堀 正二 他編, じほう (東京) .

中村 敏明. 2024 「みてわかる薬学 図解 医薬品情報学 改訂5版」, 折井 孝男 編集, 南山堂 (東京), pp40-43, pp.44-47

角山 香織, 中村 敏明. 2024 「みてわかる薬学 図解 医薬品情報学 改訂5版」, 折井 孝男 編集, 南山堂 (東京), pp.96-112, pp.113-118, pp.119-135

角山 香織, 津田 真弘. 2023 循環器疾患の薬剤一覧, 「循環器疾患最新の治療 2024-2025」伊藤 浩・山下 武志 編集, 南江堂 (東京) .

角山 香織. 2024 第5章 多職種連携 5・1 多職種連携における薬剤師, 「新スタンダード薬学シリーズ 第2巻 社会と薬学」新スタ薬シリーズ編集委員会 編集, 東京化学同人 (東京) .

角山 香織. 2023 医薬品各条: 服薬指導・製剤・配合変化・副作用、[第十八改正日本薬局方・第一追補解説書 条文・注・解説] 赤池 昭紀・伊賀 立二・市川 厚 他編集 柴崎 正勝・乾 賢一 他監修, 廣川書店 (東京) , pp.C23-C129

神林 祐子. 2024 エキスパートが注目する最新エビデンスをアップデート! 鎮痛薬 1, 「Evidence Update 2024 最新の薬物治療のエビデンスを付加的に利用する」名郷 直樹 編, 南山堂 (東京) , pp.134-137

解説・プロシーディング・紀要・その他

矢野 良一. 2023 基礎からわかる! 電解質マネジメント カルシウム. *調剤と情報* **29** : 1378-1383

矢野 良一. 2023 副作用症状がないことを確認するモニタリング 無顆粒球症. *調剤と情報* **29** : 2705-2708

神林 祐子. 2023 薬剤師が知っておきたい緩和ケアの基礎知識. *日本臨床腫瘍薬学会雑誌* **30** : 137

神林 祐子, 清水 真弓, 石塚 友一, 澤 昇平, 矢部 勝茂, 内田 まよこ. 2023 がん患者におけるオピオイド誘発性便秘症の危険因子 単一施設における後方視的研究. *Palliative Care Research* **18(Suppl.)** : S270

学会

中山 賢, 岩永 一範, 中村 任. ペクチン添加量の違いによる溶液中レボドパ濃度の評価: 日本医療薬学会 第6回フレッシュャーズカンファランス, 2023年 6月 (京都)

北田 一恵, 岩永 一範, 角山 香織, 矢野 良一, 中村 敏明, 中蔵 伊知郎, 上野 智子, 中村 任. ARB/カルシウム拮抗薬配合錠処方歴と血圧の変化との関連解析: 日本医療薬学会 第6回フレッシュャーズカンファランス, 2023年 6月 (京都)

栗原崇, 岩永一範, 角山香織, 矢野良一, 中村敏明, 中蔵伊知郎, 上野智子, 中村任. 80歳以上の高血圧患者における ARB/サイアザイド系利尿薬配合錠開始後の血圧値の分類変化: 日本医療薬学会 第6回フレッシュャーズカンファランス, 2023年 6月 (京都)

吉岡佐恵, 山下和彦, 岩永一範, 山本和宏, 矢野育子, 中村任. 食道癌 FP 療法施行患者における術後回復期以降のプラチナ血中濃度推移と臨床検査値との連関解析: 第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 (神戸)

山村瑞穂, 中村任, 岩永一範. HIV 薬物療法における使用薬剤の簡易懸濁法可否に関する検討～ドルテグラビルの溶解性に及ぼすラミブジン・アバカビル硫酸塩配合剤の影響について～: 第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 (神戸)

永田 理香子, 井倉 恵, 中村 任, 島本 裕子, 上野 智子, 渡辺 琢也, 塚本 泰正, 川端 一功. 心臓移植患者における LSS によるミコフェノール酸 AUC 算出の実践と目標域の検討: 第 33 回 日本医療薬学会年会, 2023 年 11 月 (仙台)

伊藤 今宵, 大木場 美香, 角山 香織, 中村 敏明, 矢野良一. 一般女性から見たウィメンズヘルスに関する相談相手としての薬剤師: 医療薬学フォーラム 2023, 2023 年 7 月 (山形)

木盛 愛実, 中村 敏明, 矢野 良一, 角山 香織. 薬局実務実習後の学生の意見に基づく実習内容の質的評価: 第 8 回 日本薬学教育学会大会, 2023 年 8 月 (熊本)

角山 香織, 木盛 愛実, 矢野 良一, 中村 敏明. 学生の意見に基づく薬局実務実習項目の実施状況ならびに充実度の評価: 第 8 回 日本薬学教育学会大会, 2023 年 8 月 (熊本)

矢野 良一, 佐藤 卓史, 角山 香織. 基礎と臨床の対話により知識統合教育を模索する: 第 8 回 日本薬学教育学会大会, 2023 年 8 月 (熊本)

板井 進吾, 荒木 隆一, 上塚 朋子, 長谷川 裕矢, 間瀬 広樹, 宮脇 未来, 矢吹 拓, 矢野 良一. 医療従事者による症例検討会に関するスコーピングレビュー: 第 33 回 日本医療薬学会年会, 2023 年 11 月 (仙台)

古林呂之, 田中晶子, 藏屋幸輝, 岩永一範, 坂根稔康. 点鼻剤を経口剤の代替製剤とするための基礎検討～剤形による薬物吸収速度の制御～: 第 33 回 日本医療薬学会年会, 2023 年 11 月 (仙台)

飯田 達也, 細畑 圭子, 東 悠輔, 林 真白, 米山 弘樹, 金 徳男, 北村 育子, 植村 優希, 吉田 彩葉, 豊田 美唯, 葉山 登, 宇佐 美吉英, 高井 真司. 新規 vanin-1 阻害剤の急性腎障害軽減効果の検討: 第 28 回 日本病態プロテアーゼ学会学術集会, 2023 年 8 月 (高槻)

米山 弘樹, 北村 育子, 植村 優希, 吉田 彩葉, 豊田 美唯, 細畑 圭子, 金 徳男, 葉山 登, 宇佐 美吉英, 高井 真司. 腎疾患治療薬開発を指向した新規 vanin-1 阻害剤の創製: 第 28 回 日本病態プロテアーゼ学会学術集会, 2023 年 8 月 (高槻)

吉田 晶栄, 古町 和弘, 熊谷 悦子, 細畑 圭子. XCOVID-19 感染の危険因子に関する後方視的観察研究: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

熊谷 悦子, 小林 奈津子, 細畑 圭子. 0.25 mg のセマグルチドで重症重症逆流性食道炎, 脱水, ケトosis を起こした 2 型糖尿病の一例: 第 61 回 日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2024 年 1 月 (横浜)

熊谷 悦子, 小平 睦月, 細畑 圭子, 牧内 雅信. Range of plasma natriuretic peptide (BNP) level in hemodialysis patients with high risk of 1-year mortality: 第 88 回 日本循環器学会学術集会, 2024 年 3 月 (神戸)

段林 正明, 津田 真弘, 角山 香織, 高橋 一栄, 安川 乃里子, 涌嶋 伴之助, 瓦 比呂子. 薬学実務実習における多職種連携と教育を実践してみよう! ~災害医療編~: 第 8 回 日本薬学教育学会大会, 2023 年 8 月 (熊本)

神林 祐子, 清水 真弓, 石塚 友一, 澤 昇平, 矢部 勝茂, 内田 まやこ. がん患者におけるオピオイド誘発性便秘症の危険因子 単一施設における後方視的研究: 第 28 回 日本緩和医療学会学術大会, 2023 年 6 月 (神戸)

神林 祐子, 石川 剛, 阪口 晃一, 田淵 祐輔, 田口 哲也, 高山 浩一. 乳がん患者における nab-paclitaxel による末梢神経障害の予測因子の検討: 第 61 回 日本癌治療学会学術集会, 2023 年 10 月 (横浜)

神林 祐子, 内田 まやこ, 柏木 美粹, 秋葉 仁美, 清水 忠. 医薬品副作用データベース (JADER) を用いた bevacizumab による肺毒性評価: 第 33 回 日本医療薬学会年会, 2023 年 11 月 (仙台)

衛生化学研究室

学術論文

Azuma T, Katagiri M, Sekizuka T, Kuroda M, Watanabe M. 2023 Performance of a Pilot-Scale Continuous Flow Ozone-Based Hospital Wastewater Treatment System. *Antibiotics (Basel)* **12(5)** : 932, doi: 10.3390/antibiotics12050932. PMID: 37237835

Azuma T, Usui M, Hayashi T. 2023 Inactivation of Antibiotic-Resistant Bacteria in Hospital Wastewater by Ozone-Based Advanced Water Treatment Processes. *Sci Total Environ* **906** : 167432, doi: 10.1016/j.scitotenv.2023.167432. PMID: 37777130

総説

東 剛志. 2023 環境水・医療排水中の抗菌薬及び薬剤耐性菌の実態と不活化法の開発. *獣医学雑誌* **27** : 9-16

東 剛志, 林 哲也. 2023 薬剤耐性とワンヘルスーオゾン処理の有効性についてー. *相愛大学研究論集* **39** : 17-26

著書

東 剛志, 関塚 剛史, 黒田 誠, 片桐 美和, 渡邊 学. 2023 第3章 製品・応用分野の紹介 (医療・衛生・美容分野)・4 医療機関に由来する排水処理へのオゾンの応用, 「オゾンの利活用事例集 追補版」, 日本医療・環境オゾン学会 (大阪), pp.36-40

解説・プロシーディング・紀要・その他

東 剛志. 2023 特集 大阪の水環境 淀川中下流・支川における抗菌薬および薬剤耐性菌による環境問題への取り組み. *水環境学会誌* **46** : 240-244

学会

服部 菜々美, 横井 佑軌, 武田 治樹, 羽瀨 康容, 楠本 嵩志, 佐久間 覚, 奥平 桂一郎. 天然イソチオシアネート化合物 Erysolin による抗肥満効果の検討: 第73回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023年10月 (神戸)

加藤 貴子, 佐久間 覚, 奥平 桂一郎. ヒト脳血管内皮細胞 hCMEC/D3 の密着結合に対するメチルグリオキサール及びL-テアニンの影響: 第73回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023年10月 (神戸)

野口 果琳, 外村 奈夕, 奥平 桂一郎, 尾崎 恵一. 多剤耐性慢性骨髄性白血病細胞における HDAC 阻害剤耐性克服法について: 第27回 日本がん分子標的治療学会学術集会, 2023年6月 (佐賀)

永尾 綾菜, 樹山 友絵, 三輪 保翔, 立花 洸季, 楠本 嵩志, 羽瀨 康容, 佐久間 覚, 奥平 桂一郎. ApoA-1 結合タンパク質(AIBP)による HDL の抗炎症効果への影響: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

楠本 嵩志, 佐々木 澄美, 橋本 蒼太, 卷 怜奈, 大野 寛人, 吉田 徳幸, 井上 貴雄, 奥平 桂一郎. 線虫の核酸トランスポーターSID-1 のヒト相同分子の解析: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

羽瀨 康容, 楠本 嵩志, 松尾 由月, 中井 麻由美, 小島 日和, 奥平 桂一郎. グルコース単独による膜トランスポーターABCA7 の発現制御の解明: 第 96 回 日本生化学会, 2023 年 10 月 (福岡)

東 剛志, 臼井 優, 林 哲也. 医療機関に由来する排水高度処理へのオゾンの応用: 日本オゾン協会 第 32 回年次研究講演会, 2023 年 6 月 (東京)

東 剛志. 医療と環境の関わりについて: 第 3 回 研究カフェ, 2023 年 8 月 (大阪)

東 剛志. 医療機関に由来する排水高度処理へのオゾンの応用: 日本オゾン協会 第 40 回オゾン技術に関する講習会・見学会, 2023 年 12 月 (宮城)

東 剛志. 医療機関における排水高度処理へのオゾンの応用: 日本医療・環境オゾン学会 環境応用部会 / オゾン水研究会 第 82 回オゾン水研究会, 2024 年 3 月 (大阪)

感染制御学研究室

学術論文

Mikame Y, Eshima H, Toyama H, Nakao J, Matsuo M, Yamamoto T, Hari Y, Komano JA, Yamayoshi A. 2023 Development and Crosslinking Properties of Psoralen-Conjugated Triplex-Forming Oligonucleotides as Antigene Tools Targeting Genome DNA. *ChemMedChem* **18(21)** : e202300348, doi: 101002/cmdc202300348 PMID: 37704578

Yagi M, Hama M, Ichii S, Nakashima Y, Kanbayashi D, Kurata T, Yusa K, Komano J. 2023 Sphingomyelin synthase 1 supports two steps of rubella virus life cycle. . *iScience* **26(11)** : 108267, doi: 10.1016/j.isci.2023.108267. PMID: 38026182

著書

駒野 淳. 2023 第5章 ウイルス各論・5.2 プラス鎖 RNA ウイルス・5.3 マイナス鎖 RNA ウイルス・5.4 二本鎖 RNA ウイルス・5.5 逆転写酵素をもつウイルス., pp.153-173, ISBN : 978-4-524-40408-7

学会

鷺坂 祐作, 細川 大輔, 南 健太, 鈴木 陽一, 浮村 聡, 中野 隆史, 駒野 淳. 全国 12 医療施設で分離された *Clostridioides difficile* の POT 型による分子疫学的解析: 第 97 回 日本感染症学会, 2023 年 4 月 (横浜)

細川 大輔, 鷺坂 祐作, 南 健太, 鈴木 陽一, 浮村 聡, 中野 隆史, 駒野 淳. *Clostridioides difficile* の環境分離株と臨床分離株の分子疫学的検討: 第 97 回 日本感染症学会, 2023 年 4 月 (横浜)

佐々木 英, 駒野 淳. RSV 感染症の流行と人流との相関に関するインフォグラフィック的解析: 第 97 回 日本感染症学会, 2023 年 4 月 (横浜)

八木 真裕子, 藤田 薫, 一井 沙耶佳, 濱 みなみ, 中嶋 友里江, 駒野 淳. ヒト細胞におけるオートファジーと風疹ウイルス持続感染の相互作用に関する解析: 第 70 回 日本ウイルス学会学術集会, 2023 年 9 月 (仙台)

瀬岡 凌, 八木 真裕子, 駒野 淳. 屋内における運動クラブ活動に伴う新型コロナウイルス感染者の集団発生に関する疫学解析: 第 70 回 日本ウイルス学会学術集会, 2023 年 9 月 (仙台)

八木 真裕子, 渡辺 真優, 野谷 京花, 駒野 淳. 栄養飢餓ストレスで誘導される p62-body の可塑性と風しんウイルス持続感染との関係: 第 46 回 日本分子生物学会, 2023 年 12 月 (神戸)

阪野 文哉, 川畑 拓也, 濱 みなみ, 渡邊 大, 塩野 徳史, 西田 明子, 朝来 駿一, 青木 理恵子, 澤田 暁宏, 西岡 弘晶, 荒川 創一, 大森 亮介, 駒野 淳, 森 治代, 本村 和嗣. クリニックにおける MSM 向け HIV・性感染症検査キャンペーン(2022 年度実績報告): 第 37 回 日本エイズ学会, 2023 年 12 月 (京都)

石橋 都, 細川 大輔, 鷺坂 祐作, 駒野 淳. バイオエアロゾルから分離された *Clostridioides difficile* の遺伝子型と臨床分離株との比較検討: 第 15 回 大気バイオエアロゾルシンポジウム, 2024 年 2 月 (大阪)

八木 真裕子, 野谷 京花, 瀬岡 凌, 駒野 淳. 栄養飢餓ストレスで誘導される p62-body の可塑性と風疹ウイルス(RV)持続感染との関係: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

瀬岡 凌, 八木 真裕子, 駒野 淳. 新型コロナウイルス感染症アウトブレイクの発生状況と発症までの期間に関するメタ解析: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

野谷 京花, 瀬岡 凌, 八木 真裕子, 駒野 淳. 風しんウイルス複製における選択的オートファジー受容体 p62/SQSTM1 の役割について: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

友尾 幸司, 富田 佳子, 尹 康子, 宮本 勝城, 土屋 孝弘, 箕浦 克彦, 田邊 知孝, 舟橋 達也. 腸炎ビブリオ (*Vibrio parahaemolyticus*) 由来シデロフォア生合成酵素 PvsA の立体構造解析に向けた結晶化条件の検索: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

田邊 知孝, 宮本 勝城, 長岡 憲次郎, 辻坊 裕, 舟橋 達也. *Vibrio vulnificus* における AraC 型転写活性化因子 DesR による ferrioxamine B 受容体遺伝子 *desA* の転写機構: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

稲田 裕明, 谷口 菜優, 土屋 孝弘, 宮本 勝城, 駒野 淳, 良原 栄策, 辻坊 裕. Bam 複合体を標的とした多剤耐性アシネトバクターに対する新規抗菌物質の開発: 第 96 回 日本細菌学会総会, 2024 年 3 月 (姫路)

生体機能解析学研究室

学会

三井 久美, 石黒 日向, 山口 雄矢, 今 海斗, 澤田 茜, 天野 祐美, 田中 智, 坂口 実. S 期の GAPDH の核内移行におけるプロリルオリゴペプチダーゼとの相互作用: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

服部 聖来, 遠藤 麻由香, 関戸 麻美, 山口 美咲, 田中 智, 坂口 実. ヒト骨髄性白血病細胞に対する SUAM-14746 の細胞死誘導メカニズムの解析: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

細川 恵理菜, 千坂 理佐, 平位 紗恵子, 竹内 有沙, 田中 智, 坂口 実. ヒト乳がん細胞に対するアシタバ含有 Xanthoangelol の細胞死誘導作用: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

服部 聖来, 遠藤麻由香, 関戸麻美, 山口美咲, 田中 智, 坂口 実. ヒト骨髄性白血病細胞に対するプロリルオリゴペプチダーゼ阻害薬 (SUAM-14746) の細胞死誘導作用: 第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 (神戸)

千坂 理佐, 森田笑未, 平位紗恵子, 竹内有沙, 田中智, 坂口実. ヒト乳がん細胞株に対するアシタバ含有カルコン類の抗がん作用: 第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 (神戸)

生化学研究室

学術論文

Fujii T, Inoue N, Nobeyama T, Inoue J, Ogasawara S, Otani Y, Fujii S, Ito C, Fukunaga R. 2023 A Simple, Rapid, and Efficient Method for Generating Multigene-knockout Culture Cells by the CRISPR/Cas9 System. *Genes Cells* **28(5)** : 390-397, doi: 101111/gtc13021 PMID: 36861495

Odongoo R, Gunarta IK, Erdenebaatar P, Suzuki R, Meguro-Horike M, Horike S, Endo Y, Fujii T, Fukunaga R, Yoshioka K. 2023 Overlapping Role of c-Jun N-terminal Kinase (JNK) 1 and 2 in Imidazole Ketone Erastin-induced Ferroptosis. *Gene Reports* **33** : 101813, doi: 101016/jgenrep2023101813

著書

Ito C. 2023 Peripheral Circadian Clock, 「Insect Chronobiology」 edited by Numata H・Tomioka K, Springer (シンガポール) ., pp.115-142, doi: org/10.1007/978-981-99-0726-7

学会

富田 美月, 佐藤太一, 藤井忍, 藤井 俊裕, 伊藤千紘, 福永理己郎. 炎症応答におけるストレス応答プロテイン キナーゼ(SAPK) ファミリーの機能- ヒト単球系細胞株 THP-1 の多重遺伝子 ノックアウト細胞を用いた解析 -: 第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 (神戸)

矢吹 奈都, 伊藤 千紘, 藤井 忍, 福永 理己郎. Jun/Fos ファミリー遺伝子の多重ノックアウト HeLa 細胞を用いた AP-1 標的遺伝子の発現応答性の解析: 第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 (神戸)

芳田 瑞月, 近藤 良一, 鷹屋 優希, 木岡 誠, 浅木 誠, 藤井 忍, 藤井 俊裕, 伊藤 千紘, 福永 理己郎 . RSK/MSK ファミリーキナーゼの多重ノックアウト HeLa 細胞の作成と解析 -CRISPR/Cas9 による多重ノックアウト法を用いて-: 第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 (神戸)

伊藤 千紘 横田 めぐみ, 中村 菜乃, 藤井 俊裕, 藤井 忍, 福永 理己郎. 初期応答遺伝子誘導におけるストレス応答プロテインキナーゼの役割分担の解析: 第 96 回 日本生化学会, 2023 年 10 月 (福岡)

伊藤 千紘, 近藤 良一, 鷹屋 優希, 吉川 葵, 木岡 誠, 浅木 誠, 戸嶋 義樹, 芳田 瑞月, 藤井 忍, 藤井 俊裕, 福永 理己郎. MAPKAP キナーゼファミリー遺伝子の網羅的多重ノックアウト HeLa 細胞を用いたシグナル経路の解析: 第 46 回 日本分子生物学会, 2023 年 12 月 (神戸)

薬品物理化学研究室

学術論文

Zhang Z, Ge Y, In Y, Igarashi Y. 2023 Botryorhodines K and L, two new cytotoxic depsidones from a fungus of the genus *Arcopilus*. *J Antibiot (Tokyo)*. **76(11)** : 673-677, doi: 101038/s41429-023-00652-9 PMID: 37670100

学会

戎谷 知樹 , 宮本 勝城, 田邊 知孝, 舟橋 達也, 箕浦 克彦, 尹 康子, 友尾 幸司. 臨床分離株 *Vibrio vulnificus* M2799 株由来ペリプラズム結合タンパク質 FbpA の立体構造解析 –結晶化条件の検索と初期構造の決定–: 第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 (神戸)

戎谷 知樹, 尹 康子, 宮本 勝城, 土屋 孝弘, 箕浦 克彦, 田邊 知孝, 舟橋 達也, 友尾 幸司. 海洋細菌 *Vibrio vulnificus* M2799 株由来ペリプラズム結合タンパク質 FbpA の立体構造解析に向けた結晶化条件の検索: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

友尾 幸司, 富田 佳子, 尹 康子, 宮本 勝城, 土屋 孝弘, 箕浦 克彦, 田邊 知孝, 舟橋 達也. 腸炎ビブリオ (*Vibrio parahaemolyticus*) 由来シデロフォア生合成酵素 PvsA の立体構造解析に向けた結晶化条件の検索: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

機能分子創製化学研究室

学術論文

Sugimoto N, Hayashi J, Funaki R, Wada SI, Wada F, Harada-Shiba M, Urata H. 2023 Prodrug-Type Phosphotriester Oligonucleotides with Linear Disulfide Promoiety Responsive to Reducing Environment. *Chembiochem* **24(24)** : e202300526, doi: 10.1002/cbic.202300526 PMID: 37840006

学会

林 淳祐, 杉本 紀人, 村田 春菜, 和田 俊一, 和田 郁人, 斯波 真理子, 浦田 秀仁. ApoB 標的アンチセンス核酸 gap 領域へのリン酸トリエステル修飾の導入と活性への影響: 日本核酸医薬学会 第8年会, 2023年7月 (名古屋)

和田 俊一, 下田拓海, 林 淳祐, 浦田 秀仁. Effect of lysine replacement with arginine in amphipathic helical peptide on siRNA delivery into cells: 第60回 ペプチド討論会, 2023年11月 (大津)

和田 俊一, 山田 梓, 林 淳祐, 浦田 秀仁. 還元環境に応答するリンカーを有した 5-aminolevulinic acid-環状 RGD コンジュゲート体の合成: 日本薬学会 第144年会, 2024年3月 (横浜)

有機薬化学研究室

学術論文

Horiyama S, Hayama N, Yoneyama H, Usami Y, Haginaka J. 2024 Identification of novel metabolites of abiraterone in human serum and their metabolic pathways. *Anal Sci* **40(1)** : 67-74, doi: 101007/s44211-023-00431-4 PMID: 37831314

学会

Horiyama S, Hayama N, Yoneyama H, Usami Y, Haginaka J. Identification of unknown metabolites of abiraterone in human serum: 3rd International BMS Symposium, 2023 年 10 月 (京都)

堀山 志朱代, 葉山 登, 米山 弘樹, 宇佐美 吉英, 萩中 淳. ヒト血清中のアビラテロン未知代謝物の構造解析: 第 71 回 質量分析総合討論会, 2023 年 5 月 (大阪)

本田 千恵, 堀山 志朱代, 葉山 登, 花井 俊彦, 萩中 淳. Abiraterone およびその代謝物のモノメリック C18 固定相における分離機構の計算科学的考察: 第 30 回 クロマトグラフィーシンポジウム, 2023 年 6 月 (岐阜)

米山 弘樹, 北村 育子, 植村 優希, 吉田 彩葉, 豊田 美唯, 細畑 圭子, 金 徳男, 葉山 登, 宇佐美 吉英, 高井 真司. 腎疾患治療薬開発を指向した新規 vanin-1 阻害剤の創製: 第 28 回 日本病態プロテアーゼ学会学術集会, 2023 年 8 月 (高槻)

本田 千恵, 堀山 志朱代, 葉山 登, 花井 俊彦, 萩中 淳. Abiraterone およびその代謝物のモノメリックおよびポリメリック C18 固定相における分離機構の考察: 日本分析化学会 第 72 年会, 2023 年 9 月 (熊本)

葉山 登. 不斉共役付加反応の新展開～不斉補助基から不斉触媒へ～: 金剛化学株式会社講演会, 2023 年 10 月 (富山)

本田 千恵, 堀山 志朱代, 葉山 登, 花井 俊彦, 萩中 淳. Abiraterone およびその代謝物の逆相固定相における分離機構の考察: 第 34 回 クロマトグラフィー科学会議, 2023 年 10 月 (福岡)

馬場 輝, 葉山 登, 米山 弘樹, 宇佐美 吉英. Rancinamycin Ia の合成研究: 第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 (神戸)

北村 育子, 米山 弘樹, 細畑 圭子, 金 徳男, 高井 真司, 葉山 登, 宇佐美 吉英. フッ素置換基を有するパンテテイン誘導体の開発と vanin-1 阻害作用の構造活性評価: 第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 (神戸)

西 由紀菜, 葉山 登, 堀山 志朱代, 矢田 麻奈衣, 米山 弘樹, 萩中 淳, 宇佐美 吉英. ヒト血清中アビラテロンの未知代謝物の同定と合成: 第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 (神戸)

米山 弘樹, 吉田 彩葉, 北村 育子, 豊田 美唯, 細畑 圭子, 金 徳男, 葉山 登, 宇佐美 吉英, 高井 真司. 腎疾患治療薬開発を指向したパンテテイン類縁体の合成と vanin-1 阻害活性の評価: 第 40 回 メディシナルケミストリーシンポジウム, 2023 年 11 月 (名古屋)

葉山 登, 大杉 芽生, 中庄屋 勝行, 米山 弘樹, 竹本 佳司, 宇佐美 吉英. 触媒的不斉アザマイケル反応を用いた不斉四級炭素構築法の検討: 第 49 回 反応と合成の進歩シンポジウム, 2023 年 11 月 (岐阜)

東田 隆志, 葉山 登, 西 由紀菜, 堀山 志朱代, 米山 弘樹, 萩中 淳, 宇佐美 吉英. アビラテロンの新規代謝物の合成研究: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

静間 千紘, 浅田 夏月, 根来 紅凜, 葉山 登, 米山 弘樹, 宇佐美 吉英. α -ケトビニルカルビノール部分構造を有する シクロペンテノン型天然物の合成研究: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

本田 千恵, 西村 奏咲, 葉山 登, 萩中 淳. Bisphenol A およびその誘導体に対する分子インプリントポリマーの保持能および分子認識能の検討: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

医薬分子化学研究室

学術論文

Kanehara R, Takana K, Yamada Y, Koshino H, Hashimoto M. 2023 Termination of the Chirality Confusion of Peribysins. *Bull Chem Soc Jpn* **96(4)** : 318-320, doi: 101246/bcsj20230025

特許

山田 剛司, 菊地 崇. 抗がん剤. **特願 2019-044662** 大阪医科薬科大学

学会

大間 知佳斗, 阪本 健太郎, 高野 乃真子, 安田 大輔, 影近 弘之, 平野 智也. 亜鉛イオン応答型光分解性保護基の開発研究: 第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 (神戸)

大崎 愛弓, 園畑 みずき, 安原 徳子, 柴崎 紀子, 平野 智也, 影近 弘之, . 柑橘系果皮に含まれる PMF の蛍光特性と細胞への応用: 第 67 回 香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会, 2023 年 10 月 (千葉)

安田 大輔, 大間 知佳斗, 阪本 健太郎, 高野 乃真子, 影近 弘之, 平野 智也. 亜鉛イオン応答型光分解性保護基の開発: 第 49 回 反応と合成の進歩シンポジウム, 2023 年 11 月 (岐阜)

大崎 愛弓, 園畑 みずき, 安原 徳子, 柴崎 紀子, 平野 智也, 影近 弘之. 柑橘果皮由来の蛍光成分の蛍光特性と生細胞への応用: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

安田 大輔, 井上 大輔, 杉本 真優, 海東 和麻, 大江 知之, 平野 智也. 側鎖にアセトアミド構造を有するナフタレン誘導体の細胞内 Nrf2 活性化効果: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

平野 智也, 安田 大輔, 大間 知佳斗, 阪本 健太郎, 田中 諒太, 高野 乃真子, 影近 弘之. 亜鉛イオン応答型光分解性保護基の開発研究: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

山田 剛司. 身近な海洋生物の毒: 健康マスター関西会, 2023 年 10 月 (高槻)

伊藤 智広, 阪井 智香, 山田 剛司. Halosphaeriaceae 科真菌が産生する dihydrocolletodiol による抗炎症作用: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

生薬科学研究室

解説・プロシーディング・紀要・その他

石田 斉, 平田 佳之. 2024 ルテニウムポリピリジル錯体の抗がん活性. *技苑第158号*(関西大学先端科学技術推進機構刊行物)

特許

石田 斉, 原愛実, 平田 佳之. ルテニウムポリピリジウム錯体、及び抗ガン剤への利用. **特願 2023-086639**
関西大学, 大阪医科薬科大学

平田 佳之, 谷口 雅彦. 酸棗仁に含まれるアポルフィンアルカロイドの製造法. **特願 2024-031506** 大阪医科薬科大学

学会

Murakami Y, Azuma S, Taniguchi M, Baba K, Furukawa F. Inflammation of epidermal keratinocytes induced by various indoor air pollutants and its suppression by naringenin: International Societies for Investigative Dermatology (ISID) 2023, 2023 年 5 月 (東京)

平田 佳之, 上里 新一, 谷口 雅彦. Picrasidine L の p53/DRAM 経路を介したオートファジー誘導メカニズムについて: 日本生薬学会 第 69 年会, 2023 年 9 月 (仙台)

村上 能庸, 吾妻 正章, 馬場 きみ江, 谷口 雅彦, 古川 福実. 柑橘ジャバラ果皮成分による黄砂誘導性炎症反応の抑制: 日本生薬学会 第 69 年会, 2023 年 9 月 (仙台)

平田 佳之, 宇藤 春香, 波方 志保里, 谷口 雅彦. 酸棗仁由来アポルフィンアルカロイドと相互作用する神経変性疾患関連分子の探索: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

村上 能庸, 鳶 幸生, 江村 晃太, 馬場 きみ江, 谷口 雅彦, 古川 福実. オゾンガスによる環境アレルギーの失活: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

石田 斉, 原 愛実, 田中 宏一, 平田 佳之. ルテニウムポリピリジル錯体の疎水性評価と抗がん活性: 錯体化学会 第 73 回討論会, 2023 年 9 月 (水戸)

石田 斉, 平田 佳之. ルテニウムポリピリジル錯体の抗がん活性: 関西大学・大阪医科薬科大学医工薬連環科学教育研究機構研究発表会, 2024 年 1 月 (吹田)

分子構造化学研究室

学術論文

Asano A, Kawanami Y, Fujita M, Yano Y, Ide R, Minoura K, Kato T, Doi M. 2024 Electronic substituent effect on the conformation of a phenylalanine-incorporated cyclic peptide. *RSC Adv* **14**(2) : 1062-1071, doi: 10.1039/d3ra07836a. PMID: 38174232

学会

金延 彩太, 加藤 巧馬, 浅野 晶子, 土井 光暢. Buforin II をモデルとしたジ置換アミノ酸導入膜透過性ペプチドの創製と評価: 第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 (神戸)

大深 豪, 小林 遼太, 加藤 巧馬, 浅野 晶子, 土井 光暢. C18AA をモデルとしたジ置換アミノ酸導入膜透過性ペプチドの合成と評価: 第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 (神戸)

Kato T, Yamamoto Y, Kosukegawa N, Yoshikawa A, Asano A, Doi M. Development of helical peptides utilizing aspartate picolyl ester as a side chain crosslink by metal ions: 第 60 回 ペプチド討論会, 2023 年 11 月 (大津)

加藤 巧馬, 山本 雪乃, 小助川 直樹, 吉川 明里, 浅野 晶子, 土井 光暢. 側鎖にピコリルエステルを含有するペプチドの金属イオンを介した側鎖架橋によるヘリックス構造の安定性評価: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

吉川 朱音, 加藤 巧馬, 浅野 晶子, 土井 光暢. 両親媒性ペプチド中のアミノ酸側鎖環サイズが脂質二重膜へ及ぼす影響の評価: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

段野 緋衣那, 加藤 巧馬, 浅野 晶子, 土井 光暢. 両親媒性ヘリックスペプチド中のジ置換アミノ酸の導入位置による脂質二重膜への影響評価: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

薬学教育推進センター

学術論文

宮崎誠. 2023 薬学部学生の読解力と学内成績および薬剤師国家試験成績との関係. *薬学教育* 7: 155-162, doi: 10.24489/jjphe.2022-058

学会

松尾 真奈, 宮崎 誠, 長谷井 友尋, 佐藤 卓史, 井上 晴嗣. 薬物動態パラメータの生体リズムは血中薬物濃度推移にどのような影響を与えるか 2: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

総合薬学研究センター

学術論文

Kadota K, Kämäräinen T, Sakuma F, Ueda K, Higashi K, Moribe K, Uchiyama U, Minoura K, Tozuka Y. 2023
Unveiling the flavone-solubilizing effects of α -glucosyl rutin and hesperidin: probing structural differences through NMR and SAXS analyses. *Food Funct* **14(23)** : 10493-10505, doi: 101039/d3fo03261b PMID: 37938858

学会

戎谷 知樹, 宮本 勝城, 田邊 知孝, 舟橋 達也, 箕浦 克彦, 尹 康子, 友尾 幸司. 臨床分離株 *Vibrio vulnificus* M2799 株由来ペリプラズム結合タンパク質 FbpA の立体構造解析 –結晶化条件の検索と初期構造の決定–: 第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 (神戸)

戎谷 知樹, 尹 康子, 宮本 勝城, 土屋 孝弘, 箕浦 克彦, 田邊 知孝, 舟橋 達也, 友尾 幸司. 海洋細菌 *Vibrio vulnificus* M2799 株由来ペリプラズム結合タンパク質 FbpA の立体構造解析に向けた結晶化条件の検索: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

友尾 幸司, 富田 佳子, 尹 康子, 宮本 勝城, 土屋 孝弘, 箕浦 克彦, 田邊 知孝, 舟橋 達也. 腸炎ビブリオ (*Vibrio parahaemolyticus*)由来シデロフォア合成酵素 PvsA の立体構造解析に向けた結晶化条件の検索: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

山田 拓磨, 植村 雅子, 箕浦 克彦, 米田 誠治. 抗がん活性を有するアゾラト架橋白金(II)二核錯体とアデノシンにより形成される新奇な 8 員環キレート錯体: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

平田 雅彦. 放射線照射による ヒアルロン酸の低分子化: 日本薬学会 第 144 年会, 2024 年 3 月 (横浜)

言語文化化学グループ

学術論文

Amagase Y, Hoshiyama M, Hasegawa S, Kanbara M, Mizukawa Y, Urushidani T. 2024 Spasmolytic Effect of Flopropione Does Not Involve Catechol-O- methyltransferase (COMT) Inhibition. *Biol Pharm Bull* **47(3)** : 660-668, doi: 10.1248/bpb.b23-00808. PMID: 38508741

解説・プロシーディング・紀要・その他

Smith TY, Amagase Y, Yamashita N, and Noguchi J. 2023 Acquisition of the meanings of medical terms with katakana counterparts. *Journal of Medical English Education* **22(2/3)** : 64-67

Takei Y, Amagase Y, Sugiyama A. 2023 Peritoneal signalling improves hippocampal BDNF expression in aged mice. *Aging (Albany NY)* **15(14)** : 6625-6626, doi: 10.18632/aging.204919. PMID: 37470689

学会

山下 直子, スミス 朋子. 大学の化学の教科書にみるカタカナ語の使用の分析: 第1回 タイ国日本語教育国際シンポジウム, 2024年3月 (タイ)

Smith TY, Amagase Y, Yamashita N, Noguchi J. Acquisition of the meanings of medical terms with katakana counterparts: The 26th JASMEE Academic Meeting, 2023年7月 (東京)

自然科学グループ

解説・プロシーディング・紀要・その他

永田 誠, 武井 由智. 2024 S_{os} 置換の逆置換のある 2 次元版の性質について. *大阪医科薬科大学薬学部雑誌* **3** : 5-73

Takemoto H, Myo T, Horiuchi H, Toki H, Isaka M, Lyu M, Zhao Q, Wan. 2023 Appearance of the Hoyle state and its breathing mode in ¹²C despite strong short-range repulsion of the nucleon-nucleon potential. *Phys. Rev. C* **107** : 44304, 10.1103/PhysRevC.107.044304

Myo T, Takemoto H. 2023 Resonances and scattering in microscopic cluster models with the complex-scaled generator coordinate method. *Phys. Rev. C* **107** : 64308, 10.1103/PhysRevC.107.064308

Myo T, Lyu M, Zhao Q, Isaka M, Wan N, Takemoto H, Horiuchi H. 2024 Variation of multi-Slater determinants in antisymmetrized molecular dynamics and its application to ¹⁰Be with various clustering. *Phys. Rev. C* **108** : 64314, 10.1103/PhysRevC.108.064314

学会

竹本 宏輝, 明 孝之, 堀内 昶, 井坂 政裕, Lyu M, Wan N, Zhao Q. 複素スケールリングされた生成座標法で得られた Bloch-Blink 波動関数による ⁸Be の共鳴の解析: 日本物理学会 2024 年春季大会, 2024 年 3 月 (Web)

明 孝之, 竹本 宏輝. 複素スケールリングされた生成座標法を用いた微視的クラスターモデルによる共鳴と散乱の記述: 日本物理学会 2024 年春季大会, 2024 年 3 月 (Web)

人間文化学グループ

解説・プロシーディング・紀要・その他

城下 賢一. 2023 規制改革と農政 2013-2019 規制改革会議における農政議論の推移. *大阪医科薬科大学紀要人文研究* **54**: 71-88

環境医療学グループ

学会

阪本 恭子, トビアス・バウアー, 床谷 文雄, クラウディア・クレル. 赤ちゃんポストと匿名出産から内密出産までの経緯: 日独国際ワークショップ①「匿名による子どもの委託と出自を知る権利」, 2023年8月(ドイツ)

阪本 恭子, トビアス・バウアー, 床谷 文雄, イェルク・ラインハルト, カティア・シュトッペンブリック. 内密出産制度の法的問題: 日独国際ワークショップ②「匿名による子どもの委託と出自を知る権利」, 2023年8月(ドイツ)

阪本 恭子, トビアス・バウアー, 床谷 文雄, アンケ・ダーレ. 匿名・内密で生まれた子どもの養子縁組斡旋の現状と課題: 日独国際ワークショップ③「匿名による子どもの委託と出自を知る権利」, 2023年8月(ドイツ)

阪本 恭子, トビアス・バウアー, 床谷 文雄, フランツィスカ・パプスト. 内密出産の法的規制とその課題: 日独国際ワークショップ④「匿名による子どもの委託と出自を知る権利」, 2023年8月(ドイツ)

阪本 恭子, トビアス・バウアー, 床谷 文雄, アンゲリカ・ヴォルフ. 妊娠相談所における内密出産の実情: 日独国際ワークショップ⑤「匿名による子どもの委託と出自を知る権利」, 2023年8月(ドイツ)

阪本 恭子, トビアス・バウアー, 床谷 文雄, エルケ・シュミット. 妊娠相談からみた内密出産の課題: 日独国際ワークショップ⑥「匿名による子どもの委託と出自を知る権利」, 2023年8月(ドイツ)